

## 石橋昌雄先生のご退職に寄せて

奥 富 庸 一

本学社会福祉学部子ども教育福祉学科教授・石橋昌雄先生は、令和6年3月末日をもって、本学の規程により定年のご退職を迎えられることとなりました。ここに石橋先生のご功績の一端を紹介させていただき、石橋先生への心よりの感謝とさせていただきます。

石橋先生は、東京学芸大学教育学部をご卒業後、40年近く東京都の小学校教員としてご活躍されました。その間、教頭、校長と管理職をはじめ、東京都の社会科副読本の作成委員長や小学校社会科の検定教科書のとりまとめ、東京都教育委員会が主催する研究授業の講師等を務められてきました。立正大学へ赴任されてからも実に多くの社会的活動に従事され、小学校社会科の発展にご尽力されてきました。

立正大学へ赴任されたのは、平成28年4月です。「社会」「初等教科教育法（社会）」等のご担当として着任されました。当時の子ども教育福祉学科は、平成23年に小学校教員の養成を開始し、平成27年3月に小学校教員の1期生を輩出した頃でした。小学校教員の採用試験合格はなかなか難しく、臨時任用も含めて小学校教員として就職していく学生は10名未満でした。そのような中でつい先日まで小学校で実務をされていた石橋先生が着任され、小学校教員の養成に多くの期待が寄せられていました。

石橋先生の小学校教員養成の手腕は、すぐさま発揮され、小学校教員として就職した学生の人数は、平成29年4月着任分から15名、13名（平成30年）、19名（平成31年）、18名（令和2年）、30名（令和3年）、19名（令和4年）、19名（令和5年）、36名（令和6年予定）と、小学校教員を希望する学生を確実に就職させていかれました。これは新卒のみで、2年目以降に採用試験を受けて就職していく卒業生を入れるともっと増えることとなります。その手腕は、もはやマジシャンのようで、学生が石橋先生の魔法にかかり、希望する小学校教員へ変身していく様子は傍から見ても痛快でした。マジシャン・魔法というと何か特別な仕掛けがありそうに聞こえるかと思いますが、石橋先生の指導は、実に丁寧に、地道に、学生と向き合うことで行われます。授業以外での採用試験対策自主ゼミでは、先生と学生の空き時間を使って、細やかな指導がなされていますし、長期休暇中には集中的な対策講座が開かれています。時には学内のみならず、学外でも細やかに指導されているとお伺いしたこともあります。採用試験後には、正規採用が決まった学生に対して任用前研修として小学校教員として最初に行うべき職務内容や心構えについてのレクチャー、採用試験が不合格だった学生には産休代替教員や臨時任用教員への道を探るべく東京都や埼玉県の小学校や教育委員会へ学生と一緒に回ってくれたり、石橋先生のもちうる資源を惜しみなく費やされ、学生を確実に小学校教員にしていきました。

卒業後も小学校教員として、ちょっと心配だなと思う学生には声をかけ、ご自身の研究会に誘われたり、立正社会福祉学会で授業研究を卒業生と一緒に発表されたりと、丁寧なフォローアップもされていました。これはどれも石橋先生が自らお引き受けくださり、何の手当もなく、先生のご厚意のみでされていました。どうしてここまで学生のためにできるのかと、いつぞやお尋ねしたことがあります。すると先生は、「これは趣味だから」ととても控えめに話されていたことがとても印象的でした。石橋先生がご在職中に小学校教員採用試験の合格者が増えたり、小学校教員になろうとする学生が増えたりしたことは、もちろん、石橋先生をはじめとする小学校教員養成担当の先生方のチームワークによるものではありませんが、その中心には石橋先生の考え方、養成方針があったことと思いますし、細やかで丁寧な指導があったからこそだと思います。石橋先生の想いを少しでも引き継いでいけるよう残された私たちもがんばらなければいけないと思うばかりです。

さて、石橋先生といえば小学校教員養成のイメージがもちろん強いわけですが、学内業務としては、平成29年度から入試実行委員会でご活躍されました。オープンキャンパスでは、学生と共に石橋ゼミで毎年計画されているゼミ旅行の様子などを紹介され、学生と教員との距離が近く、実践的で深い学びができる子ども教育福祉学科という印象を受験生に与えてくれました。私が最も印象深い思い出は、総合型選抜ゼミナール方式（当時AO入試ゼミナール型）の入試設計に関わるワーキングです。当時、入試運営委員としてこの試験種の設計をしなければならぬ立場にありながらも経験も考えも乏しい私に「採用試験でも討論があるから参考になるかも」と教えてくださり、何度も何度も一緒に考えてくださいました。石橋入試と呼んでも過言ではないくらい、ゼミナール型の入試設計には、お力添えをいただきました。

このたび、石橋先生のご退職にあたり送辞を書かせていただくことは、本当に光栄なことです。ご略歴に記されているように、小学校社会科の指導的立場であり、著名な先生であるにもかかわらず、学生にも教員にも気さくに関わってくださいました。アカデミックキューブの廊下で石橋先生と会うと「何だか知らないけど、めちゃくちゃ忙しんだよなあ。この後も面接やってくれて学生が待ってるんだよ。昨日もずっとやってたんだよ。」などと、カッカカッと笑いながらお話しされている様子を見て、本当に学生が好きなんだな、大切にされているのだなと思わずにはいられませんでした。私もこういう先生になっていきたいと思わせてくれる素敵な先生です。多くの卒業生の想いも込めてお伝えいたします。これまでたくさんのご指導をくださり、ありがとうございました。

いったんここで区切りとはなりますが、これからも学生とともにご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。石橋先生のご健康と今後のご活躍を心より祈念申し上げます。